

身近な景観について考えてみよう ～高田公園編～

これから観桜会のシーズンを迎える高田公園でも
様々なところで景観に配慮されています。

◇高田公園のサイン



公園内のサインには、高田公園サイン基本計画で定められた、色や大きさ、デザイン等のルールがあります。見やすいだけでなく、高田公園と調和したダークブラウンで統一されています。

◇観桜会のぼんぼり



観桜会の釣りぼんぼりは、これまでピンク色でしたが、主役である桜を際立たせるために、白色ベースのものに徐々に変わっています。まだピンク色一色のぼんぼりもありますので、見比べてみてください。夜は、電球色のぼんぼりのあかりが、夜桜本来の美しさをうつしだします。

みなさんが景観づくりの主役です！

上越市の景観をつかっていく主役は、市民、事業者、行政、専門家、教育機関など上越市に暮らす私たち一人ひとりです。景観づくりの主役であることを意識していくことで、「上質な美しいまち」「心地良い景観」がつけられていきます。日常生活の中でも「景観」と「まち」について考えてみましょう！

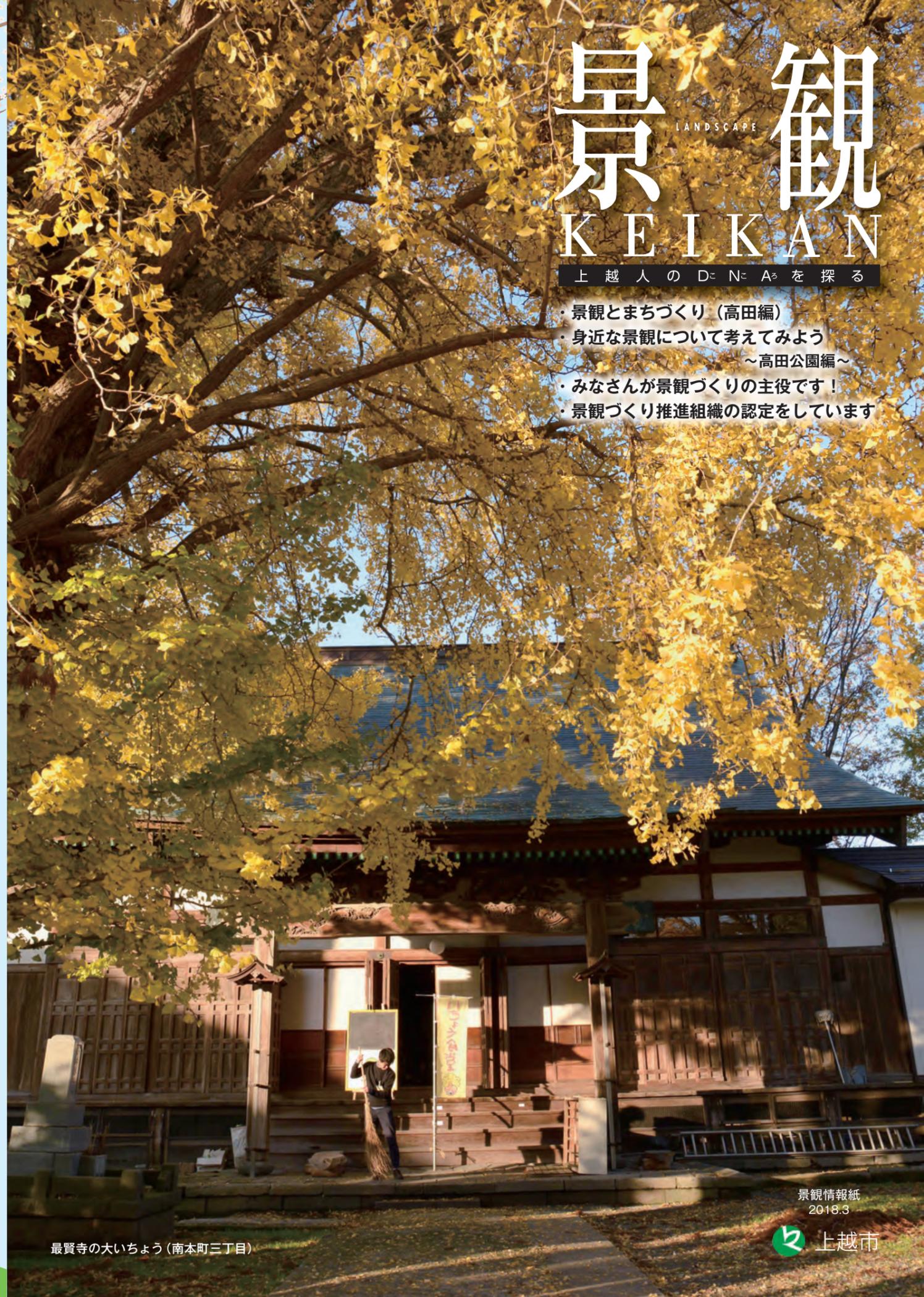
景観づくり推進組織の認定をしています

上越市では、地域の景観形成に有効な活動を行っている団体を上越市景観条例に基づき認定し、支援を行っています。景観づくりに取り組まれている団体は是非ご確認ください。

景観 LANDSCAPE KEIKAN

上越人のDNAを探る

- ・景観とまちづくり（高田編）
- ・身近な景観について考えてみよう
～高田公園編～
- ・みなさんが景観づくりの主役です！
- ・景観づくり推進組織の認定をしています



最賢寺の大いちょう（南本町三丁目）

景観とまちづくり 高田編

上越市では、住民のだけれども、日々心地良いと感じ、訪れる人たちにも上越の良さを感じてもらえるような、景観づくりを目指しています。この景観づくりは、まちづくりと切り離せないものであり、それぞれの地域の特色を活かした景観まちづくりを推進しています。

市内には、まちなかや中山間地、新興住宅地など様々な地域があり、それぞれで景観づくりや景観まちづくりが行われています。

今回は高田地区の雁木や町家が残るエリアで景観まちづくりに取り組んでいる方々にお話をお聞きしました。みなさんも景観まちづくりとはなんなのか？どんな取り組みができるのか？を考えてみましょう。

関 由有子さん「(一社)雁木のまち再生」代表理事

「(一社)雁木のまち再生」等で活躍する建築士。町家や雁木を含めた高田の文化を中心にしたまちづくりに取り組んでいる。

◆あなたにとっての景観まちづくりとは？

景観とまちづくりは切り離せないものだと思います。基本的には住人の日常と結びつくような景観(暮らし方の形)を、まちづくりとして考えたいと思います。そういう視点に立つと、「雁木」はわかりやすいですね。雁木の途切れたところに山なりの積雪があると、通学の小学生から、ゴミ出しに行くお年寄りまで、やむを得ず車道を歩かねばなりません。近隣の皆さんが除雪して下さることに感謝するとともに、そういうまちの『今とこれから』をどう考えていくか？見えない部分を考えて、それを発信して見えるようにすることは、景観まちづくりの重要な役割だと思います。住民がまちの良さを意識して、他者に語り伝えることで、当たり前だと思ってきたことが、実は大切なことであると自覚できます。言葉にすることで、まちに住む人の心が、来訪者にも一層強く伝わると考えます。



町家を活用した取り組みの様子

◆これからどんな取り組みをしたい？

多くの人々にこのまちの良さを知ってもらうために、町家暮らし体験から、日常生活の楽しさ、面白さを実感してもらう取り組みも考えています。上越周辺には素晴らしいサイクリングコースがあり、サイクリストも増えています。例えば町家なら、自転車を土間に入れるようにするなど、旅人の希望に対応できるでしょう。そんなことも町家活用の可能性になりそうです。広い視点で地域の景観とまちづくりをつないでいきたいと思っています。

小川 善司さん「きもの小川」店主 「NPO法人高田警女の文化を 保存・発信する会」事務局 等

本町7丁目で、明治35年から続いている呉服店「きもの小川」店主。呉服店を営む傍、高田の文化や伝統に誇りを持ち、雁木や町家、高田警女等を広める取り組みを行っている。

◆あなたにとっての景観まちづくりとは？

私は、元からあるものをいかに活かしていくかということを大事にしています。また、活かし方はそれぞれで異なってくるものですので、一朝一夕ではできません。経営している呉服店も約30年前に改装して、元々の町家を活かすように変えましたが、そのやり方が理解されるまで10年以上かかりました。今では少しずつ浸透してきているようで、近所では建具の取り換えや白蟻被害のための改修の際に、元々のまちなみを活かす形でどんな方法があるかを考えて、改修をしてくださいました。まずは自分たちからできることを始めることで、周りに気持ちが伝わって広がってってくれるんだなと感じています。地道なことを続けていくことが景観まちづくりにつながっていくのだと思います。



角巻やとんぼコートと雪の中の雁木

◆これからどんな取り組みをしたい？

高田のあたりまえの景観が、ただあたりまえではなく、すばらしいものだということを住んでいる人に気付いてほしいです。そうすれば自ずと外部へも発信されると思います。

また、私もそうでしたが、外の人に言われて気づく場合もあります。ほかのまちに無くてまねできないものがたくさんあって、そういうものがどうやったら活きるのか。それぞれが知恵を絞って、集まってくればこのまちの素晴らしさが光ると思います。高田はいろんな文化が積み重なっているのだから、それらを掘り起こして住民の皆さんに知ってもらいたいです。

南本町三丁目景観づくりの会

平成29年に発足した団体。雁木や町家が残る南本町三丁目で、住民主体の取り組みが少しずつ広がっています。



笠尾 日出夫さん「(南本町三丁目景観づくりの会)会長」

◆あなたにとっての景観まちづくりとは？

当初は景観ってなんだろう？というところからのスタートでした。景観まちづくりの取り組みを始めてからも探り探り進めてきて、ようやく少しずつ分かり始めてきている気がします。何か特別なことをするのではなく、自分の住んでいるまちがどんなまちか、どんなところが好きかを確認し、共有することから始めました。南本町三丁目ではまだまだこれからの取り組みですが、景観まちづくりの一步として、まずはまちと向き合うということが大切だと感じています。

◆これからどんな取り組みをしたい？

だんだんと雁木も歯抜けになって空き家も増えてきている町内をどうにかしたいというのが一番です。その「どうにかしたい」というところを住民のみなさんと「どうしたい」のかを考えていきたいです。あまり焦らずに景観まちづくりに取り組んで、次世代につなげていくことが必要だと思っています。

上原 裕美子さん「(南本町三丁目景観づくりの会)」

◆あなたにとっての景観まちづくりとは？

根本は人と人の関わりだと思います。昨年ののれんづくりの取り組みでは参加してくれた方も楽しんでくれました。楽しみながら取り組み、少しずつまちのことを考えて、地道に続けていくことが景観まちづくりにつながっていくのではないかなと思います。また、南本町三丁目ではイベントも多く、住民同士が顔を合わせる機会が多い町内です。そんな中でも人付き合いや住民とまちとの関係性が変わってきていると思います。そういった人とまちのかかわり方が景観にも表れてくるのかもしれない。

◆これからどんな取り組みをしたい？

まずは今やっている取り組みを試行錯誤しながら、地道に続けることで、関わる人が多くなればうれしいです。

将来的には景観的な統一感も出つつ雁木も残り、現代的な利便性の良いものとのバランスも考えられたまちになったらいいなと考えています。そして子供たちの声が聞こえ、お年寄りも安心して生活できるというのが理想ですね。人と人との関わり合いがあるのはほっとします。住民自身が変わっていけば、景色も変わっていったよという町内になったらいいですね。雁木は私有地を出し合っていて空間だから、そこから芽生えてきた人々の思いがたがって大きくなってまちができていくという考えが、南本町三丁目でも育ってほしいです。

雁木に合う色と町内ならではの絵柄を考え、自分たちで染色し縫製したのれんを雁木通りに飾り付けました。普段とは違う視点でまちを見る取り組みです。

これも「景観まちづくり」です



■安塚区の柳葉ひまわり
個人の庭から始まった柳葉ひまわりを植える取り組みが、区全域に広がっています。この取り組みも含めて、上越市の景観資産にもなっています。



■新しいまちのルール
新たにできるまちでは、建物の色や位置、緑化等みんなで決めたルールをみんなで守っています。